

# 令和5年度 学校自己評価表 (計画段階) 実施段階)

学校運営計画 (4月)		総合評価	
学校運営方針	校訓の精神と教育目標を継承した上で、新しい時代に必要となる資質・能力を育成するために、「Challenge(挑戦)、Creation(創造)、Collaboration(協働)、Contribution(貢献)」を学びのキーコンセプト(4C)とする実践的・体験的な教育活動を推進する。		
昨年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的目標	
<p><b>【成果】</b></p> <p>コロナ禍においても昨年度は、新型コロナウイルス感染防止の徹底を図りながら学校での教育活動を実施した。特に学校行事である体育祭や文化祭、修学旅行が実施できたことは大変良かった。部活動では、昨年度も陸上競技部や水泳部、卓球部、バスケットボール部、弓道部など活発に部活動を実施し各大会に出場し輝かしい成果を上げている。特に陸上競技部は徳島県で実施されたインターハイに出場できたことは素晴らしいことである。文化系では、情報部eスポーツをはじめ電子機械研究のロボット競技大会は、全国大会に出場し、ものづくりコンテストでは電気科の「電気工部門」、土木科の「測量技術部門」が長崎県で実施された九州大会に出場して優秀な成績を収めた。また、福岡県の生徒研究発表会では、情報技術科の「webRTCを活用した遠隔での対話・操作の実現」として研究の成果を発表し、優良賞を受賞した。コロナ禍ではあるが、部活動やものづくり、資格取得など多方面に渡り活躍するなど文武両道における素晴らしい成果を上げることができた。</p> <p><b>【課題】</b></p> <p>学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善の推進と意欲的な学習態度の育成、自己指導能力の育成、生徒会活動等生徒の主体的活動の更なる推進。更に「学校いじめ防止基本方針」に基づく、いじめ問題の未然防止、早期発見及び学校のブランド力を再構築し、広報活動に努めることで生徒募集の拡大を図る。</p>	<p>・新学習指導要領をもとに授業改善・充実に努め、観点別評価を定着させて、教科指導力の向上を図る。</p> <p>・ICT端末を使って課題を発見したり、情報を収集したり、効果的に表現する等「学習に必要な道具」として生徒達が主体的に学ぶ力を育てる。</p> <p>・積極的な生徒指導を基本とし、他人が見ていない所で努力する生徒の育成を推進する。</p> <p>・民法改正に伴う成年年齢の引き下げにより、さらに自己指導能力の育成を図るとともに、心豊かな人間の育成を目指し、ハ工生としての誇りと責任感を醸成する。</p> <p>・生徒に対して交通安全マナーを徹底させ、交通事故を減らす。</p> <p>・キャリア教育の充実に努め、進路目標実現に向け努力を継続する生徒を育成する。</p> <p>・修学支援・教育相談の充実を図り、SCや訪問相談員等の外部専門家との連携・協働を推進する。</p> <p>・ものづくり教育や資格取得等、各学科の特色化及び充実を図る。</p> <p>・広く広報活動を行い、社会に開かれた地域貢献ができる学校づくりに取り組む。</p> <p>・働き方改革推進委員会を通して職員の働き方を見直し、職員の働きやすい環境作りや、不祥事を起こさない環境づくりに取り組む。</p>	<p>・主体的・対話的で深い学びのためのアクティブラーニング型授業の推進やICT機器の活用を図る。</p> <p>・指導と評価の一体化を目指した学習評価のあり方を検討し、目標に準拠した評価・観点別評価を定着させる。</p> <p>・外部模試及び資格検定試験等を有効活用し、学ぶ姿勢を含めた学力向上を図る。</p> <p>・挨拶、マナーや交通安全等、生活全般にわたる積極的な生徒指導を展開し、社会人として求められる資質能力を生徒自身が理解し身につける取組を実施する。</p> <p>・生徒会活動を中心とする生徒の主体的取組を促し、自ら考え判断し行動する生徒育成を行う。</p> <p>・生徒が主体的に運営する学校行事や部活動を展開することにより、全生徒が活躍できる場を創出する。</p> <p>・リーダー並びにフォロワーの育成を進め、所属感や達成感を高める特別活動を展開する。</p> <p>・就職及び進学に対する計画的かつ組織的な指導体制を充実させ、進路指導の体系化を構築する。</p> <p>・各学年での適切なガイダンスと意識を高める取組を企画し、キャリア教育の充実を図る。</p> <p>・心豊かな人間性を育む道德教育の充実を図り、社会の一員としての自らの在り方、生き方を考える力を育てる。</p> <p>・校内の教育相談体制をさらに充実させ、外部機関との適切な連携による、いじめや不登校等の早期対応に努める。</p> <p>・資格取得や各種検定については、生徒個々の目的と目標に沿って、各教科・各学科において適切に助言し、指導する体制の構築を図る。また、課題研究への取り組みの充実により、課題発見・課題解決能力の育成を図る。</p> <p>・多様な広報媒体活用による積極的かつ戦略的広報活動に取り組む。</p> <p>・職員のワーク・ライフ・バランスを実現し、健康でやりがいを持って働くことができる職場の環境を整備する。</p> <p>・日頃の悩みを気軽に相談しあい、気になる点は職員同士がお互いに意見交流のできる、明るく風通しの良い職場環境づくりに努める。</p>	
評価項目	具体的目標	評価(3月)	次年度の主な課題
学務課	・確かな学力の育成	・チャイム始業の徹底を図る。また、特別時間割等で変更した科目の授業時間数の均衡を目指す。	
		・「ドリカムシート」を活用し、生徒の自学自習力の定着や自己研鑽力を育成する。	
		・到達度テストの結果を踏まえ担当者で連携し、個人の課題発見と基礎学力の向上を目指す。	
		・1人1台端末を積極的に活用し、主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善に努める。	
	・ものづくり教育の充実	・学校説明会等を積極的にを行い、中学生への広報活動の充実に努める。	
		・企業や大学との連携を推奨し、課題研究や実習等における質の高い教育実践を行う。	
		・必要とされる資格を精選することで、計画的な資格取得を支援する。	
	・成績改善対象者や長期欠席者等への対応	・各教科において、考査の結果のみに偏らない総合的な観点別の評価の実証及び検討を行う。	
		・教務部と学年・教科・分掌との連携を強化し、対象生徒に対し、ICTを活用するなどの計画的な補習を行う。	

学務課 (図書)	・学校図書館の充実と利用促進	・図書館蔵書の充実を図り、館内整備に努め、生徒が利用しやすい環境づくりに努める。			
		・来館者と貸出し冊数の増加のため、選書方法の改善や広報活動に努める。			
		・「朝の読書」の意義を周知させ、充実した時間となるよう図書館の利用を促す。			
	・生徒図書委員会の活性化	・生徒図書委員会による図書館報の年5回以上の発行、カウンター当番などの主体的活動を促す。			
		・他校の委員会活動との交流や読書会など、研修会への積極的な参加を促す。			
	・文化的行事の運営と情操教育	・芸術教室で芸術・芸能に触れさせ、感性を磨かせ、鑑賞マナーを身につけさせる。			
・全校読書会・意見交流会を実施し、読書への関心を高め、コミュニケーション能力を養う。					
・知性と教養を育む自己研鑽の場、適切な情報発信の場となるよう努める。					
広報・情報課	・広報活動の促進・充実	・八工Newsを年5回以上発行する。			
		・学校HP、Twitter、Instagramの迅速な更新、管理運営を行う。			
		・学校案内を充実させ、本校に興味を持てるものにする。			
		・中学校訪問時の資料等の常時更新と最新の情報発信に努める。			
	・ネットワークの安定運用 ・ICTを活用した効果的な授業の推進	・タブレット端末等の利用法を確立し運用する。			
		・ネットワークの安定運用を図り、情報セキュリティ対策をしっかりとる。			
	・校務用サーバのデータの整理・適正化・暗号化を図る。				
	・ICT支援員と協力し、効果的な学習活動に寄与するような授業の推進を図る。				
生徒指導課	・規範意識の醸成と自己指導能力の育成	・自主的かつ積極的な挨拶を通して、魅力的で気持ちの良い挨拶ができる学校となることを目標とし、人から愛され、自らが誇れる生徒の育成を目指す。			
		・問題行動を未然に防ぐために、全職員が積極的な生徒指導を行い、問題行動が生じた際には速やかな情報共有を行い、問題解決のために組織的に対応する。			
		・「いじめ防止・撲滅」に対する全職員・生徒の意識の高揚を図るとともに、「いじめの早期発見・早期対応」を組織的に実践する。			
	・交通安全教育の推進	・登下校の交通指導や二輪車安全教室を通して、交通ルール・マナーに関する意識の高揚を図り、交通事故や違反者の件数の減少に繋げる。			
		・登下校時の交通ルールやマナーについて、地域住民からのご指摘を真摯に受け止め、学校全体への啓発の機会となるよう対象生徒のみならず全生徒への意識の高揚に努める			
	・生徒の自主的活動の充実	・部活動を通して豊かな人間性の育成と体力の向上と健康の増進を図る。			
・学校行事等における生徒の自主的運営の更なる充実と新たな挑戦を通して失敗した経験も糧に成長を促していけるよう努める。					
・挨拶運動のみならず、場に即した生徒の自主的啓発活動の充実を図る。 ・生徒会や学科リーダー等による生徒の主体的な活動を促していくとともに、一人ひとりに八工生としての自覚と誇りや責任感をもたせる。					
保健環境課	・自己管理能力の育成	・毎朝の健康観察を通じて感染症等の予防と早期対応による感染防止に努める。			
		・各種行事を通じての健康・安全への啓発と実践力の育成を図る。			
		・保健委員長を中心に、主体的な委員会活動を支援し、活動の活性化を図る。			
	・美化意識の向上と環境保全	・美化委員会の主体的な活動を支援し、各クラスの美化委員の意識を高めることで、全生徒の校内美化についての意識の向上を図る。			
		・学校行事及び日々の活動において、各クラス美化委員が、清掃への取組を積極的に行う。 ・日々の清掃活動や各種行事を通じて、ごみの分別を徹底し、環境の保全に努める。			
	・修学支援・教育相談の充実	・生徒・保護者に対する啓発ならびに情報提供に努め、相談しやすい体制をつくる。			
・支援委員会を定例化し、各担任、各分掌、SC、SSW、訪問相談員、関係諸機関と連携して組織的な修学支援を行う。 ・一人一人の権利が大切にされている学校づくりを進めることによって生徒の修学を保障する。					

評価の基準 A:達成できた B:ほぼ達成できた C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

就職対策課	・企業就職希望者に対する支援と100%内定合格	・職業観や勤労観、職業に関する知識や技能を身に付けさせる。			
		・3学年担任・学科と情報交換を密にし、求人情報等を共有する。			
	・公務員希望者に対する支援と100%合格	・ミスマッチの防止と早期離職防止を目指し、企業情報の収集に努める。			
		・各教科と協力し、基礎学力の向上や、問題解決能力・コミュニケーション能力の育成を図る。			
進学指導課	・基礎学力の向上と進学に必要な知識の習得	・二次試験対策(面接の対応)を具体的に示し、早めに対策できるようにする。			
		・朝課外授業や土曜セミナーの実施により基礎学力の向上を図る。			
	・主体的な進路選択の実現	・進学説明会を実施し、入試方法や手続きおよび進学先に関する情報収集に努めるように支援する。			
		・進学希望調査を実施し、詳細を調べさせることによって主体的な行動を促す。また、これを用いて必要に応じ個別指導を行う。 ・大学等からの資料を関係する生徒に配布するなど情報提供を積極的に行い、生徒の主体的な行動を支援する。			
研修課	・『主体的・対話的で深い学び』を実現するためにアクティブラーニングの視点からICTを効果的に活用した授業改善の推進	・研究授業月間を設け、共通テーマの下に授業改善に努め、教科の指導力向上を図る。			
		・授業アンケートを年2回実施し、教員の授業改善と生徒の自学力育成を図る。			
		・ICTを活用し、授業アンケートの集計から結果の還元に至るプロセスの迅速化を図る。			
	・職員研修の充実	・ICT活用をより一層推進し、本校の教育課題に応じた校内職員研修会の充実を図る。			
		・教員の自己研鑽の場として、校外研修への積極的な参加を促す。 ・組織的な指導体制をつくり、充実した初任者研修を実施する。			
	・研修成果の還元と共有	・研究紀要の作成を計画的に行い、研修の成果を職員に還元する。			
・各研修会の報告会を実施し、研修成果を共有する。					
庶務課	・綿密な行事計画の企画立案を行う。	・行事毎に業務の進捗状況を共有し、協力して業務を遂行する。			
		・業務分担や業務内容の明確化を図り、早めに準備できるようにする。			
		・式等に、教員、生徒が所属感をより持てるような企画立案を遂行する。			
	・PTAとの連携を深め、活動を支援する。	・PTA主催行事において、保護者と職員、協力し支援する。			
		・学校・PTA行事に多数参加していただけるように、早めに広報活動を行う。			
	・関連部署との連携を図り、データの活用を推進する。	・行事の実施案を早期に提示し、調整に時間的な余裕を持たせる。			
・行事記録を整理し、関連部署との連携を推進する。					
・学校行事の様々な場面でICT機器活用を推進する。					

評価の基準 A:達成できた B:ほぼ達成できた C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

人権教育	・人権教育の充実と発展	・学校の教育活動全体を通じて人権教育を推進し、全ての関係者の人権が大切にされている学校づくりに努める。			
		・生徒の実態とニーズに応じた人権教育授業を実施し、差別を見抜き許さない力を保障するとともに、「ありのままの私」で生きられる、人権が尊重される社会を実現しようとする主体を育てる。			
		・職員の研修参加態勢の充実をさせ、人権教育に係る指導力の向上を図る。			
第1学年	・基本的生活習慣の確立	・皆勤者7割(170名)以上を目指し、遅刻欠席が多い生徒に対する面談を行い、改善を図る。また、家庭と連携して自尊感情の育成を図る。			
		・生徒が報告・連絡・相談を徹底し、コミュニケーション能力を向上させ社会へ適応できる能力を育成し、将来の進路を自己決定できるようにする。			
	・規範意識の向上	・時間や規則の順守、主体的に挨拶する生徒の育成を目指す。 ・保護者との連絡や学年の情報交換を密に行い共感的な人間関係の構築を図る。			
・学習習慣の確立と基礎学力の向上	・授業において基礎・基本となる知識や技術を身に付け、家庭学習を定着させ理解を深める。 ・進路実現に向けて専門的な資格取得に挑戦させ、目標を持った意欲的な学習態度を育成する。				
第2学年	・自立できる生徒の育成	・皆勤者200名以上を目標に、家庭と連携を深めながら、遅刻欠席が多い生徒に対する面談等の早期指導を行い、原因の究明と改善を図る。 ・学校行事等に主体的に参加し、自分の個性を活かしながら異なる意見や相手の立場を尊重できる態度の育成を目指す。			
	・考え抜く生徒の育成	・大人とのコミュニケーションを増やし進路実現に向け情報収集を行う。自分の適性を理解して課題解決に向けた準備ができる生徒を育成する。 ・工場見学やインターンシップ、企業研修等の事前事後指導を充実させ、職業観を醸成する。			
	・基礎学力の向上	・基礎的な知識の定着とそれを達成するための家庭学習の習慣化を目指し、主体的かつ計画的に学習できる生徒を育成する。 ・目標を明確にし、指示を待たず自ら行動できる生徒の育成。			
第3学年	・自立できる生徒の育成を図る。	・皆勤者200名以上を目指す。 ・自分の個性を活かしながら、意見の違いや相手の立場を理解する力の向上を目指す。			
	・キャリア教育の充実を図る。	・生徒一人ひとりにあった進路指導を行い、生徒全員が納得できる進路実現を達成させる。 ・コミュニケーション力の向上を図り、自分の適性を理解して、課題解決ができる生徒を育成する。			
	・主体的・協動的に学び向かい合う生徒の育成を図る。	・最上級生としての立場をふまえた上で、体育祭・文化祭など様々な行事に対して、主体的・協動的に参加し、学校の活性化を目指す。 ・目標を明確にし、指示を待たず自ら行動できる生徒を育成する。			
電子機械科	・授業の改善と充実に努める。	・STEAM教育を取り入れた授業に取り組む。また生徒が自由に意見交流できる授業づくりを行い、深い学びの場を提供するとともに共感的な人間関係の構築を図る。			
		・生徒を指導する上で適切に褒めて伸ばし、自己存在感や自己有用性を育成する。 ・授業と関連の深い資格試験を積極的に活用し、学ぶ姿勢と自学力の向上を図る。			
	・社会人としての基本マナーと社会常識を習得させる。 ・キャリア教育の充実を行い職業観・勤労観を養い、実社会で生きる力を育成する。	・コミュニケーション能力と問題解決能力及びプレゼンテーション能力の育成を図る。 ・高度熟練者による指導を通して機械における安全管理・責任感・使命感等の人間性を育てる。 ・生徒の一人ひとりの個性を生かした進路指導を行う。また保護者の希望を踏まえた上で、生徒自身が進路を決定する場を提供する。			
・職員、生徒ともに専門性を高める。	・科の特性をふまえた適切な指導・助言に努め、ものづくりへの興味・関心を高めさせ、ロボット競技大会やものづくりコンテストなどの工業系の大会では、上位入賞を目指す。 ・全職員で学習指導や面接指導、企業情報収集等を行い就職支援に力を入れる。 ・製図検定、技能検定(機械系)、計算技術検定等、学科の専門性にあった資格取得を推進し、生徒全員をジュニアマイスターに認定させる。				

評価の基準 A:達成できた B:ほぼ達成できた C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

自動車科	・授業の改善と新しい評価方法の構築に努める。	・主体的・対話的で深い学びのためのアクティブラーニング型授業を推進すると共に、新学習指導要領に沿った、新しい評価の方法を模索する。			
		・授業や実習のあらゆる場面で、ICTの活用を推進する。			
		・教育活動のあらゆる場面で、リーダーシップとコミュニケーション能力を育成する。			
	・職員の専門性と教科指導力を高め、学科の活性化を図る。	・ものづくりコンテスト(自動車整備部門)において、全国大会優勝を目指す。			
		・学科内で研修を活性化させ、戦略的に自動車に関する技術・技能の伝承を図る。			
		・令和5年度ものづくりコンテスト全国大会の事務局業務に全職員一丸となって取り組む。			
	・生徒および保護者の、自動車科満足度160%を達成する。	・科職員全員が団結して3年生の進路指導にあたり、生徒全員、第1希望の進路を実現させる。			
		・3級自動車整備士試験および技能検定試験(機械検査)において合格率100%を目指す。			
		・すべての生徒がいきいきとして輝き、活躍できるように、生徒一人ひとりに寄り添う丁寧な教科指導、生徒指導に全職員で取り組む。			
電気科	・座学と実験・実習との連携を強め専門教科の指導を充実させる。 ・自ら学習する意識と行動力の育成を目指す。	・進路先の実務内容に対応できる実習を取入れ、座学と実習の連携を強める。また、Google Classroom等のICTを使った教育に力を入れる。			
		・ものづくりに関連する項目を各学年で設定し、生徒の意欲・関心を高めさせ、学力の向上に繋げる。			
		・問題解決能力とコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力の育成を図る。			
	・社会人としての基本マナーと社会常識を習得させる。 ・産学官連携事業を通して職業観・勤労観を養い、実社会で生きる力を育成する。	・日頃より服装、挨拶、清掃、遅刻、欠席、言葉遣い等に対する指導を徹底する。			
		・学校や科・クラスへの帰属意識を高め、学校行事に積極的に参加する意識を養う。			
		・産学官連携事業を通して、電気業務に必要とされる責任感・安全性・使命感等の人間性を育てる。			
・第二種電気工事士の全員取得を目指す。 ・職員間での進路に対する共通理解と企業情報を共有して、生徒の進路実現を目指す。	・第二種電気工事士の全員取得を目指す。				
	・高度資格の指導を行い、自ら学び成長し社会貢献する意識を育てる。 ・全職員で学習指導や面接指導等に力を入れ、生徒の進路実現を目指す。				
情報技術科	・自ら考え行動する力を育て、心豊かな人間の育成を目指す。	・学校行事や学級活動等への主体的な取り組みを通して、自ら考え行動する力を育て、問題解決能力を高める。			
		・クラス担任や教科担当者及び関係機関と協力し、生徒の状況を的確に把握する。			
		・思いやりの心や感動する心を通して自己肯定感を高め、社会貢献する意識を育てる。			
	・キャリア教育を充実し、主体的に進路を選択できる能力を育む。 ・基礎と基本を重視した学習指導を行い、学力の向上を図る。	・工場見学やインターンシップ等を通して、職業観・勤労観を育む。			
		・進路情報を職員で共有し、一人ひとりに応じた指導を行うことで、全員の進路実現を目指す。			
		・基礎・基本を重視し、さらに座学と実習の連携を強化することで、理解力を高める。 ・ICT機器の活用を図ると共に、最新技術であるAI、eスポーツ等にも取り組み、情報技術への意欲的態度を育成する。			
	・実践的技術者としての意識と資質を育む。 ・ものづくり活動や資格取得等の指導を充実する。	・高度熟練者による実践的な実習指導などを通して技術の向上を図り、技術者としての資質を高める。また、表現の場や協調の機会を数多く設け、表現力やコミュニケーション能力を育む。			
		・ものづくりコンテスト(電子回路組立部門)の上位入賞を目指し、さらに取り組みを強化する。			
		・個々の目標を達成できるよう適切な資格取得指導を行う。第2種デジタル通信は80%、ITパスポートは50%の合格率を目指す。			

評価の基準 A:達成できた B:ほぼ達成できた C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

土木科	・主体的に学習する力を育成し、学習に対する意欲関心を高める。	・新学習指導要領を踏まえ、観点別評価を充実させ学力の向上を図る。			
		・ICT機器を効率的に活用し、学ぶ姿勢を含めた学力向上を図る。			
		・生徒を主体とした対話的な授業を展開し、深い学びに繋げる。			
		・職員の専門教科における情報の共有を図り、座学と実験・実習との連携を強める。			
	・キャリア教育を充実し、主体的に進路を選択できる能力を育む。	・就職に対する計画的かつ組織的な指導体制を充実させ、進路実現に繋げる。			
		・適切なガイダンスと意識を高める取組を企画し、生徒の進路選択の幅を広げる。			
		・HR活動を通して、生徒の発言する場を増やしコミュニケーション能力を育成する。			
		・体調管理を徹底し、欠席・遅刻・早退を減らし、各学年皆勤30名を目指す。			
	・ものづくり教育や資格取得等、充実に努め、実践的技術者としての意識と資質を育む。	・インターンシップや現場見学等の現場体験を充実させ、土木職に関する意識向上を図る。			
		・測量士補20名以上、2級土木施工技術検定25名以上の合格を目指す。 ・資格指導の充実を図り、ジュニアマイスターシルバー以上の認定者を25名以上を目指す。			
		・ものづくりコンテスト福岡県大会2連覇に向け、職員・生徒間での技術継承をおこなう。			
工業化学科	・主体的に学習する意欲と学力の向上を目指し、確かな学力を育成する。	・専門科目および実習における観点別評価を定着させ、生徒が目標を持って主体的に授業に臨めるようにする。			
		・アクティブラーニング型授業の展開や、ICT機器を活用することで、授業や実習の改善・充実に努める。			
		・教員間で工業化学に関する技術・技能の継承を行う。			
		・専門科目や資格取得において、課題等を工夫して行い、家庭学習を含めた学習習慣を身につけさせると共に、自ら学ぼうとする姿勢を育成する。			
	・社会人として通用する資質・能力を身につけさせる。	・気になる生徒に関しては、教員間で情報交換を密に行うと共に、保護者と連携を取りながら組織的に対応する。			
		・遅刻・欠席を減らし、各学年80%以上の皆勤者を目指す。			
		・教室や実習室の環境整備を心掛けさせ、規範意識の向上に努める。			
		・実習や学校行事において、生徒にそれぞれの役割を責任感をもって取り組ませると共に、成功体験を通し、自尊感情の向上に努める。			
	・進路指導の充実と進路実現を目指す、キャリア教育の推進を図る。	・資格取得において、科の職員全員で協力して補習等による指導を行い、特に難関資格である甲種危険物取扱者や高圧ガス製造保安責任者等の資格保有者を増やす。			
		・科の職員全員で3学年担任をサポートし、学習・面接等の指導し、就職希望者の一次合格率100%を目指す。女子生徒の進路希望実現に向けキャリア教育部、学年と連携して取り組む。			
		・日々の授業や行事等において積極的に参加させ、リーダーシップやコミュニケーション能力等の社会人として必要となる資質を身につけさせ、卒業後も活躍できる生徒の育成に努める。			
事務部	・学校経営目標の実現のため、効果的な事務処理を行う。	・学校経営に積極的に参画し、各分掌と情報共有を図りながら、効果的な予算執行と事務処理を行う。			
		・生徒、保護者に対し、丁寧でわかりやすい情報提供を的確に行う。			
		・職員と協力し、効果的な校舎構築工事を行うとともに、校内の安全確保に努める。			

評価の基準 A:達成できた B:ほぼ達成できた C:あまり達成できなかった D:達成できなかった